

「RubyWorld Conference」に、全国から、多くの皆様にお越しいただき、誠に有難うございます。

地元の知事として心から歓迎申し上げます。

そして、「RubyWorld Conference」がこのように盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げます。

また、経済産業省をはじめ、開催にあたりご支援をいただきました皆様に心より感謝申し上げます。

さて、Rubyは、ご承知のように、日本発のプログラミング言語としては唯一のもので、世界中で知られるプログラミング言語となりました。

島根県では、これまで松江市と一緒になりまして、Rubyを活用しながら、IT産業の集積が進むよう、ITの企業誘致を進めてまいりまして、多くのIT企業が近年、島根に来て頂いております。

そして、Rubyの認知度向上と利活用がさらに進むよう、2つの新たな取り組みを今年度からスタートさせます。

一つは、Rubyを使って、優れたビジネスを展開している企業を表彰する「Rubybizグランプリ」です。

今年度は、国内外から30事例の応募がありました。

Rubyの生みの親である まつもと ゆきひろ さんを審査委員長として、優秀な5事例を選考し、12月17日に東京（帝国ホテル）で表彰式を開催します。

二つ目は、高校生以下の若者にRubyを使ったプログラミングに接する機会を提供する「スモウルビー・プログラミング甲子園」です。

来年1月10日まで参加作品を募集し、来年3月26日に決勝大会を、「RubyWorld Conference」が毎年開催されるこの会場で行います。

また、先月には、くにびきメッセ4階に「しまねソフト研究開発センター」を開設しました。

このセンターは、ITの先駆的な研究開発、県内企業が新たな展開を目指す商品を創出するための取り組みや、高度IT人材の育成・集積などを推進してまいります。

こうした取り組みを通じて、関係の皆様や松江市と一緒にRubyの使用を拡げていきたいと考えています。

ご来場の皆様には、こうした取り組みを知っていただき、島根でIT事業を行う際の条件の良さを知っていただければ、と思います。

終わりに、今回の「Conference」が、皆様にとって実り多きものとなりますとともに、「Ruby」のさらなる発展とご参加いただいた皆様のますますのご活躍をご祈念申し上げ、歓迎のご挨拶と致します。